

■R02.02.04 市長定例記者会見内容

日時 令和2年2月4日（火）午前11時～11時20分

場所 庁議室

出席 市長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、地域創生部交流推進調整監、
市長公室長、地域共生課長、国際交流主幹
酒田記者クラブ 7社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、
河北新報、NHK）

■市長発表内容

なし

■懇談・フリー質問

記者／先日「田舎暮らし」の本でシニア世代が住みたい田舎部門で1位となったが、具体的に市政に生かすアイデアはあるのか。

市長／シニア世代はネットで見ると65歳以上となるが、今回のデータは50歳以上のアンケートを踏まえているということなので、そういう意味では非常にうれしかった。私も「生涯活躍のまち構想」だとか、いわゆるシニア世代で移住定住をなんとか仕掛けたいという思いがある。「生涯活躍のまち構想」も具体的に計画も動いているわけだが、そういう意味では非常に弾みになるいい話題であったと思う。このことをもっとアピールしながら、シニア世代の移住定住につなげていけば、今回のニュースはグッドニュースそのものだったと理解している。ご存じの通り、限られた分野の雑誌ではあったが、ナンバーワンになったことは市民にも大変喜んでいただいている。本を欲しいがなかなか買えないという状況にまでなっているようなので、ある意味、今回の話題は新しい年の話題としてはグッドタイミングだった。去年ビッグニュースと言ったのは実はこのことだった。雑誌に取り上げられたということでNHKでも取り上げてくれたので、ありがたかったと思っている。シニア世代はナンバーワン、ただ子育て世代や若者世代のランキングが落ちていたので、ここはもっと政策的にも力を入れなければいけないということで、田舎暮らしの本は勉強になったと思っている。具体的な施策というよりも、今回、介護予防や健康づくりとか地域医療体制とか就労支援も含めて、そういったものが評価されたのかと思う。若者とか子育て支援の面ではランキングが落ちているというのは、子育て支援や出産祝い金とか、給食費の無償化、高校生までの医療費の無料化、中高一貫校があるかないか、そこのところの施策は手厚くないので、そういうところがマイナス評価でランキング下がったかという思いをしている。若い人たちについては、若者世代が住みやすい地域かということと娯楽施設があまりないし、特に若者の皆さんがこの地域で住み続けるために魅力ある施策があるかということ、まだまだだなという思いがあるので、その辺については仕掛けをこれから考えていかななくてはいけない。これから

どんどん東京に出ていくということからすると働く場の話もあるし、我々がこういう施策を打ってすぐ効果が生まれるかという難しい面があると思っているが、課題としてしっかりとらえていきたいと思っている。子育て世代の関係で言うと、昨年の選挙の時に屋内型の遊戯施設を検討するという話をしたが、来年度から少しプラン作りを急がせようと思っている。そういったところで子育て世代に向けた施策については、若者世代はなかなか難しい面があるが、我々が努力すればもっと手が打てるという思いでいる。記者／どうしてもシニアというと、医療費とか介護の問題がある意味増えてしまうような気がするが、そこでもいいからクローズアップするのはどういう主旨か。

市長／世話をしなければならぬ人が移り住んでくるということではなく、この地域のためにパワーを出してくれる世代の人たちをこちらに呼び込んで、地域づくりの担い手になってもらいたいという思いがある。シニア世代、元気な人、財力もあれば能力もある方々に移り住んでもらって、この地域のために力とお金を出してくれるというのは非常にありがたいと思う。そういう人たちを招いて地域の活力アップにつなげたいという思いから、いずれその人たちも年を取ってくれば介護とか医療だとかで、当然こちらが税金を投入しなければならないということはあるが、それは致し方がない。できればその前にそれに見合う分だけ、しっかりこの地域にお金を落とす、あるいは地域の活力をあげるために貢献をいただいたうえで、老後は安心してここで暮らしていただける。そういうふうになればいい。そういう意味では医療体制、介護のための様々な仕掛け、施設、こういったものが充実しているということも評価されたんだろうとっていて、これからもそこには力を入れていかないといけない。

記者／屋内型遊戯施設の話で具体的には来年度からということになると思うが、今のところ市長として具体的にどういうものにしていきたいか。鶴岡の方でソライが料金の件でもめている。利用料金はどうするか。

市長／まだ具体的に何も決まってないが、基本的に子育て世代そのものが大変経済的には苦しい世代だろうと思うので、あまり経済負担をかけないような施設にしたいと思っている。隣近所にあるような同じ施設を作っても仕方がないので、酒田でないと楽しめないような機能の施設にできたらという思いでいる。具体的に来年度当たり基本計画をしっかりと作って、具体的なイメージを市民の皆さんに提示できればという思いでいる。私の任期の間になんとかオープンにこぎつけられれば、公約を果たしたことになると思うので、それに向けて努力していきたいと思う。

記者／今日、午後からジェットスターの片岡社長が鶴岡に先に来て、夕方から丸山市長に会うということだが、どのような要件か。

市長／わからない。年初めの定例の挨拶なのか、また別途相談案件があるのか私どもは聞いていない。特に時間もそんなに長くないので、そういう面ではあいさつ程度かとい

う思いでいた。特に今のところ何も聞いていない。

記者／搭乗率が低迷しているとかそういった話ではないのか。

市長／そうではないと思う。今、12月、1月と搭乗率が落ちていて、冬場ということもあるが少し気にはしている。ご存じの通り酒田市としては、いろんな仕掛けを打って、ジェットスターを利用してもらうための支援措置を講じてきてたと思っているので、来年度に向けても我々はしっかり、ジェットスターのためにもサポートする仕掛けは準備している。その辺なども少し話しながら、もっと頑張ってもらいたいということと、願わくば、2便化なども検討していただければありがたいという話を今日はしたいと思っている。

記者／今、庄内開発協議会で、全日空の5便化をお願いしたいという話があったが、5便化になるとジェットスターに影響が出るのかなと。

市長／ジェットスターを呼び込む際に、全日空に対しては利用者の競合はないということで話をして、全日空からも快くかどうかはわからないが、受け入れをしていただいたうえで就航に取り付けた。実際8月、9月、10月くらいまでは好調で、しかも全日空も好調だったから、利用者の切り分けはできたと思う。そこは全日空の5便化とジェットスターの存続というのは切り離してもやっていけると。むしろお互いに利便性が高まるという側面もあるという思いから、是非5便化については県のほうから頑張ってもらいたい。ただ許可するかは国の判断になる。でも手だけでも挙げてもらいたいと思っている。手を上げないという選択肢はないだろう。私どもも開発協として先だって副知事に要望に行ってきたが、市・町・議会、更には地元の商工会議所、経済界、こぞって是非手を上げてくれと要望をしてきたので、それに手を上げないという選択肢を県は取らないだろう。取ったらこれは地域に寄り添った県政、吉村知事が日頃言っているのも、そうはならないんじゃないかと言いたくなると思ってる。是非、手を挙げてもらいたいと思う。

記者／旧割烹小幡の件、進捗状況は。

市長／詳細はあとで交流推進調整監からこれまでの経緯も含めて説明させるが、今のところ、もう一度、建設工事について入札をして、落札になれば3月議会に契約議案を提出したいと思っている。だいぶ時期が遅れた。いろんな事情があった。順調にいけば、3月議会で議決をいただけたとすれば、令和3年3月までに完成をさせて、令和3年のゴールデンウィーク前にはプレオープンということにこぎつけたい。その後外構など少しじりたいたいと思っているので、来年の秋にはランドオープンを目指したい。そういうスケジュールで考えている。

交流推進調整監／使用予定者については、今年度、昨年7月12日に決まって、その後、設計などにも使用予定者の意見、意向なども踏まえながら進んできたところ。入札自体は、あさって2月6日入札の予定。そこで事業者が決定になれば、3月議会に建設

の契約案件として議決をいただくことになる。その後、本体工事、外構工事、それから来年度中には施設の設置管理条例、そういったものも整備をするということになる。令和3年4月下旬にプレオープンという予定で進んでいる。使用予定者ともしっかりと毎月少なくとも2回以上は打合せをしながら、その中では、厨房の位置だとか、スペースの取り方だとか意見交換をしながら、設計の方にも反映しているという状況です。

記者／今、話になった厨房位置とか設計などの話で使用予定者は平田牧場だと思うが、結局、洋館と和館、どちらも使うという認識でいいのか。

交流推進調整監／はい。

記者／来年のゴールデンウィーク前にプレオープンとなって、グランドオープンは来年の秋を予定しているということで外構などをするということだが、プレオープンの段階ではどこまでのオープンを今現在予定しているのか。

市長／今、道路に面したところの玄関前はもちろん整備しないと入っていけないので、外構とはどちらかというところの裏側の神明神社、向こう側、庭園ほど立派なものではないが、植栽を小ざれいにするとかで、石垣はいじらない。出入りするのに支障がない範囲で、前面のところはオープンまでにやらなければいけない。後ろと港側、そちらのほうを外構として少し整備をしたいと思っている。

記者／旧割烹小幡のリニューアルに対して、市長が考えている機能というのはプレオープンの段階ですべて利用できるか。

市長／はい。特にいろんな人の話だと、クルーズ船が来た時に外国の方々が、あそこを散策するのが非常に人気があり、興味を持たれるそうなので、是非あの界隈を散策しやすい環境に持っていきたい。そういう意味では、外構もいずれは重要になってくるが、まずはオープンして酒田の美味しい料理を味わえる、あるいは酒田の街並みを見渡せる瞰海楼（かんかいろう）としてのかつての機能が再現できればいいという思いを持っている。

■その他

なし

◆その他配布資料

①酒田南高等学校と国立サントペテルブルク第583番学校との交流事業について（交流観光課）

記者／費用負担はどちらでやるのか。

国際交流主幹／1/2を市で負担。

以上